

博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
機関名	名古屋大学	全体責任者（学長）	松尾 清一
類型	複合領域型（多文化共生社会）	プログラム責任者	高橋 雅英
整理番号	S02	プログラムコーディネーター	東村 博子
プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング（豊かな生活を実現し権利を保障する）をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアの中で、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食(量的確保と安全)、環境(衛生)、健康(医療、福祉)、社会(脱貧困)、教育(次世代育成)における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率（日本の約数十倍）などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべき課題であり、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。

2. プログラムの進捗状況

H26年度から採用を開始した正規履修生は、1期生17名、2期生17名、3期生18名となり、申請時のカリキュラムを総て実施し、問題点の抽出と改善を行い、今後も安定して実施・継続できる体制を確立した。特にH28年度は、より専門性の高い学生の自主的な調査を主とする海外実地研修2を実施した。海外実地研修2と海外研修演習2は、D1で履修する科目であり、これにより総てのカリキュラム科目実施の経験を得た。また、5名の履修生を海外の国際機関にインターンとして派遣し、実践的教育を行った。H27年度末に1期生、H28年度末に2期生の博士課程後期への進学審査（Qualifying Examination相当）を実施し、履修生全員の進学を承認したが、1期生は5名、2期生は7名の奨学金の増額（15万円/月→20万円/月）を認めず、今後の経過を見ることとした。本プログラムは種々の改善を経て当初計画以上の成果をあげ、履修生は期待以上に国際的なリーダーに必要な能力を獲得しつつ有る。一方で、プログラム修了後を見据え、学内の他リーディングプログラムとの共通科目の設置を行うなど、本プログラムの内製化を進めている。更に名古屋大学特定基金「女性リーダー育成支援事業」を創設し、本プログラムの目的である女性リーダー育成のための財源確保を図っている。

（機関名：名古屋大学 類型（領域）：複合領域型（多文化共生社会） プログラム名称：「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム）